支部だより

# 関西支部第34回夏季大学の報告

関西支部第34回夏季大学を，2012年８月25日（土）に，キャンパスプラザ京都第１講義室において，大阪管区気象台及び日本気象協会関西支社の後援で開催しました．

今回は「夏の異常気象は予測できるのか？」をテーマとし，榎本　剛氏（京都大学防災研究所）「モンスーンと沙漠と偏西風 ～日本に夏をもたらす大気循環～」，立花義裕氏（三重大学大学院生物資源学研究科）「オホーツク海高気圧と夏の異常気象」，前田修平氏（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）「長期予報の実際」の３講義を実施しました．

異常気象や気候変動という社会的関心の高い内容であったためか，受講者数は昨年より10名程度増加し，10歳代から80歳代までと幅広い年齢層の方が受講されました．また，マスコミ関係者の関心も高く，翌日の京都新聞朝刊には夏季大学の紹介記事が掲載されました．さらに，これまで夏季大学受講生から寄せられた要望を勘案し，配布する夏季大学テキストを今回初めてフルカラーで印刷しました．このカラー化により，講義資料もより分かりやすくなりました．

講師の皆様は，それぞれの専門分野について，最新の研究成果やご自身の観測や予報作業の体験談なども交えて，大変熱心に講義されていました．また，受講者も興味深く聴講されていたようで，それぞれの講義の後，大変熱心な質疑応答が行われました．受講後に行ったアンケートで，８割以上の受講生が，講義数および講義時間が「適当」と回答されましたので，来年以降も今回のような形式で夏季大学を開催するのが適当と考えます．一方，異常気象のメカニズムを説明するにはロスビー波など気象力学に関する知識が必要なこともあり，講義内容に関して「難しい」と回答した受講生の割合は例年に比べやや増加しましたが，講義全体としては，内容的に概ね適当と感じられた方が多数を占めました．

最後に，多大な協力をいただいた後援の機関，講演いただいた講師の皆様に厚くお礼申し上げます．

（関西支部）